Bar「後日談」へようこそ

6/21
蔡忠浩弾き語りツアー
ランタンナイト vol.30
「逃避行はロマンチック」
リリースツアー長野公演

●ネオンボーイズ｜若林優也

bonobosのフロントマン、蔡忠浩さんが、カバーアルバム「逃避行はロマンチック」のリリースツアーとしてネオンホールにやってきました!非常事態宣言後、ネオンホールでは2本目のお客さんを入れてのライブ。今回のツアーは、ウィズコロナなんて言われだしてから、多分日本で1番早く開催されたのではないでしょうか。「やっと生の演奏を聴ける!」なんて声があちこちから聞こえる中、穏やかな雰囲気でライブが始まりました。
bonobosの楽曲に加え、ユニコーンやブルーハーツなどのメジャーバンドから、ハンバートハンバートや昭和フォークまで、幅広いジャンルの選曲でした。特にユニコーンの「すばらしい日々」はコードワークをかなり大胆にアレンジ。レゲエ的なギターのカッティングと合わさって新鮮でした。どの曲も、アレンジされることで歌詞とメロディの説得力が改めて見えてきて、曲のいちばんの芯になっている部分を再発見するのがカバーの面白さの1つなのかな、と思いました。MCでは、コロナ禍の影響下でリモートレコーディングで制作された新譜の裏話や、bonobosのアルバムの制作のことまで砕けた感じで色々聞くことができました。
大きなスピーカーで、スローに体を揺らしながら音楽を楽しむ心地よさは改めていいなーと思いました。配信ライブも面白いと思いつつ、目の前で演奏を聴くときの伝わってくる情報量は格段に多くて、ライブの良さを再確認できた気がします。少しづつ、無理なくこういった機会が増えてくると嬉しいです。

みしろの お茶飲みインタビュー

ゲスト◎児玉瑞木さん

今回も、過去ネオンホールライブに多数登場しているSSW、児玉瑞木さんにお話を伺いました。

三：児玉さんにとって、歌うこととは?
児：もともと結構歌うの自体は好きだと思うんですよ。ただ口下手だし、人見知りでちゃんと喋れないっていうのもあるんで、なんかこう…「ここにいますよ」って言ってる感じですね。実際歌ってることと、今考えてることっていうのは、まあ違うことが多いんですけど。僕はここにいますよ、こういう人ですよ、っていうのを言ってる感じです。うまく言えないんですけど。
三：今後の展望は?
児：とりあえず、続けたいなっていうのはありますね。どうなりたいとか、そういうのよりも、とにかくこれからもずっと歌い続けたいなっていう。目標とか、例えば有名になりたいとかはないんですけど、ライブを続けたいなっていうのはあります。ライブで演奏して、それを聴いてもらうっていうのを今後もやっていきたいっていうのが一番かな、って思います。
三：ライブの良さって何だと思いますか?
児：その場限りですよね。本当にそこに居た人にしか味わえないっていうか。それを聴くにはそこに行くしかない、っていう感じが良いのかなって。ライブの音源や動画を見ても、そのライブに実際に出掛けて行った人にしかわからないものってあるじゃないですか。スピーカーから出る音で体が震えたりとか。あと、そこで人に会うのもすごく大事なのかなっていう感じがします。なんでライブがしたいのかって思うと、多分、そこに聴いてくれる人が確かに居るっていう実感が持てるから…っていうのが一番大きいかな。ライブだと、そこにちゃんと人が居て、こっちを見て聴いてくれてるっていう感じがする。それが自分の中ですごく大事なことだと思ってるから、ライブを続けたいのかなと思います。また早くライブできるといいなぁって思います。(次号に続く)

サバイバルエッセイ

[I think...]

●文｜宮澤眞.

150.続続続続.悪い病気がのさばっても僕が生き残るために

やはり...、よく考えた方がといいと思います。

I think...、コロナ、ひとまず落ち着いたようで。何が功を奏したのか。第1波の結果がパールハーバーにならないように、第2波にどう備えればよいのでしょうか。素人の僕などは、夏の間に撲滅した方がいいのでは、と考えてしまいますが。逆に、夏のうちに出来るだけ集団免疫を獲得した方がいいという専門家もいて。政府も集団免疫戦略に切換えたのかと思うこの頃。このウィルスの特徴を考えると、もしかしたら第1波が終息したのは盲信的に自粛したからかもしれない。でも、もう自粛は限界。ましてや自粛警察に怯える生活なんて。僕らはどう生きたいのか、岐路に立たされている。「失敗することには耐えられるが挑戦しないことには耐えられない」マイケル・ジョーダンの名言。挑戦しないことのリスク。様子見が1番危険だということはダイヤモンド・プリンセスでも第1波でも痛感した。でも日本人は失敗することに耐えられない。だから、まず僕らは失敗を責めてはいけない。それが担保されなければ政治家も説明責任を果たさないし、チャレンジもしない。ただ、国民が怒っているのは、それ以前のことなのですが。状況の把握、管理が出来ていれば、新規患者が出てもパニックにならない。情報、そして考えること。それを個人、企業、地方がやってゆかなくてはならない。責任を丸投げして財布の紐は渡さない。オイシイ施策にしかお金を回したくないのもよく分かったので。日本人が「個」を獲得出来るのか。太平洋戦争の敗戦もみんな薄々気づいていたんだろうな。竹槍で戦闘機を打ち落とせるなんて本気で考えられる訳ない。ただ、日本国は負けたけど日本人は生き残った。組織と個との知恵比べ。さて、どちらが生き残るのか。結局、日本人という集団が生き残るのか?

門前のミッドナイト居酒屋 やきとり「でいぶ」

今日の迷言

あー！
うふふふ～
（トランプでジョーカーを引いた時）

by ぽっち

後記
予定が立てられず、スケジュールがはっきりしないまま、日々が過ぎてゆき結局カレンダーを組むのを諦めました。すみません。連載はいつも通り最高なのでぜひ読んでくださいー。夏バテ注意!(夏海)

NEONTALK
2020年7月号(vol.226)
編集:小林千里、大沢夏海
表紙イラスト:小林千里
印刷:奥山印刷工業株式会社

INFORMATION

音楽、演劇、映像、
現代美術方面に
興味のある方、
そうでない方も
気軽に来てみて下さい。
出演の方、待ってます。
TELor E-MAIL して下さい。

NEONHALL
tel/fax 026-237-2719
長野市権堂町2344 2F
http://www.neonhall.com
info@neonhall.com

NEON TALK

ネオントーク
2020.7 vol.226

◎家で気がつくとマスクをしているこの感じ頭のなかではもういいのかな？と思いつつ無限のマスク天国！NEONHALL

NEON NEONHALL Nagano City
ライブハウス、小劇場、ArtSpace